

エンマ大王が鬼を従えやってきた！

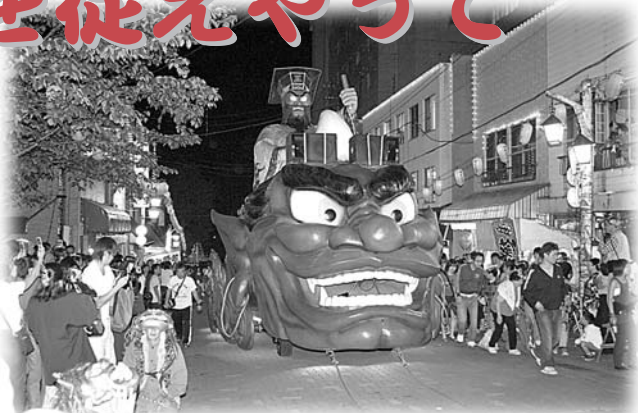
～第42回 登別地獄まつり～

8月27日(土)・28日(日)の2日間、登別温泉街で『第42回登別地獄まつり』(市、登別観光協会主催)が行われ、延べ約3万7,000人の市民や観光客がゆく夏を惜しみながら、まつりを楽しんでいました。

まつりは、主催者と地元小・中学生の代表によるテープカットに続き、登別温泉小学校児童のオニッコマーチングバンドのパレードで開幕。北海自衛太鼓の『鬼太鼓』や『鬼みこし暴れねりこみ』で徐々に盛り上がり、地獄ばやしにのって鬼面をつけた市民と観光客が一緒になって踊る『鬼踊り大群舞』でまつりは最高潮になりました。

ハイライトを飾ったのは、『エンマ大王からくり山車』。高さ約6mの巨大なエンマ大王が地獄の審判を下すと、極楽通りを埋めた市民や観光客から歓声上がるなど、登別温泉街は夜遅くまでにぎわっていました。

このほか、『足湯体験』『地獄ラーメン早食い大会』、登別中学校の吹奏楽部の演奏会や郷土芸能『熊舞』の披露などが行われ、地獄ラーメン早食い大会では、あまりの辛さと熱さに体を震わせながら完食を目指す参加者に、観客から大きな声援が送られていました。



地獄ラーメン早食い大会

まちを花いっぱい

～花いっぱい運動花壇コンクール～

8月29日(月)、市内で『花いっぱい運動花壇コンクール』の審査会が開かれました。

このコンクールは、市民の交流の場づくりや花と緑があふれるまちづくりを目的に、登別市民憲章推進協議会が毎年行っているものです。

今年は25町内会等が丹精込めて手入れをした花壇を審査。同協議会のメンバーで構成する審査員が市内を回って、マリーゴールドやサルビア、アゲラタムなどの花の咲き方や花壇のデザインなどを細かく審査しました。

審査の結果、中央町三丁目町内会と汐平町内会が優秀賞に選ばれました。



中央町三丁目町内会



汐平町内会

環境や衛生の向上を図るために

～第54回北海道公衆衛生大会～

9月1日(木)・2日(金)の2日間、市民会館で『第54回北海道公衆衛生大会』が開かれ、道内各地から環境や衛生、健康づくりに携わる方など、延べ約1,000人が参加しました。

この大会が市内で開催されるのは19年ぶり。今回は、『みんなで始める環境づくり～あなたと地球の未来のために～』をスローガンに、安心して暮らせる環境や衛生の向上を図るための気運を高め、実践活動につなげていくことを目指し、講演や事例発表などが行われました。

事例発表では、ふおれすと鉱山活動支援組織モモンガくらぶ会長の松原條一さんが『自然体験活動と環境保全』と題して発表したほか、登別市衛生団体連合会理事の雨洗康江さん・佐藤弘子さん・對馬敬子さんの3人が『春・秋のクリーン作戦とごみ分別辞典の作成について』と題して、ごみ分別辞典を作成した経緯などを、実践例を交えて発表していました。

